

# 5万分の1地質図幅「海田市」<sup>かいたいち</sup>

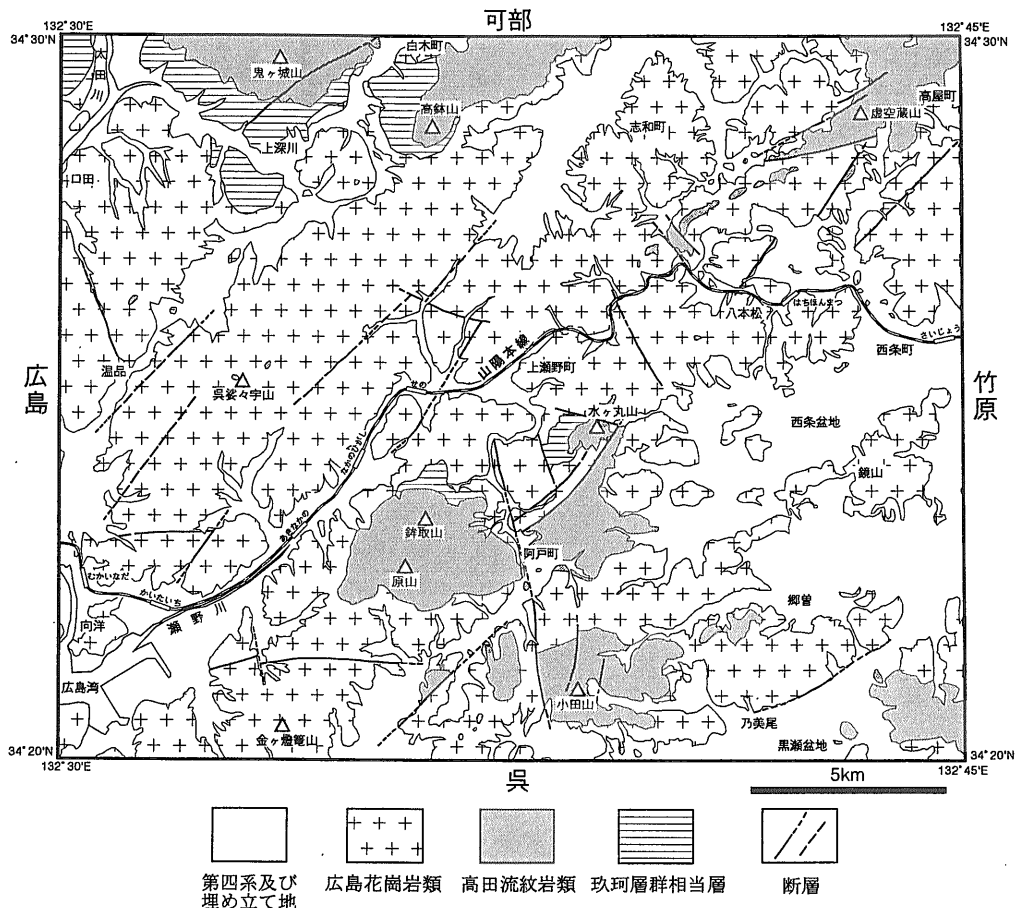
高木 哲一<sup>1)</sup>・水野 清秀<sup>2)</sup>

5万分の1地質図幅「海田市」(高木・水野, 1999)の地質調査は、地震予知のために設定された8カ所の特定地震観測地域の一つ「伊予灘及び日向灘周辺」の特定地質図幅の研究として、平成7年～9年にかけて行われました。

海田市図幅地域は、広島市街地と東広島市の間に

位置し、瀬戸内地域では南隣の呉図幅地域と並んで最も山の険しい地域の一つです。また、JR瀬野駅と八本松駅間の急勾配区間は通称「瀬野八」と呼ばれる鉄道の難所で、機関車が重連運転することで知られています。

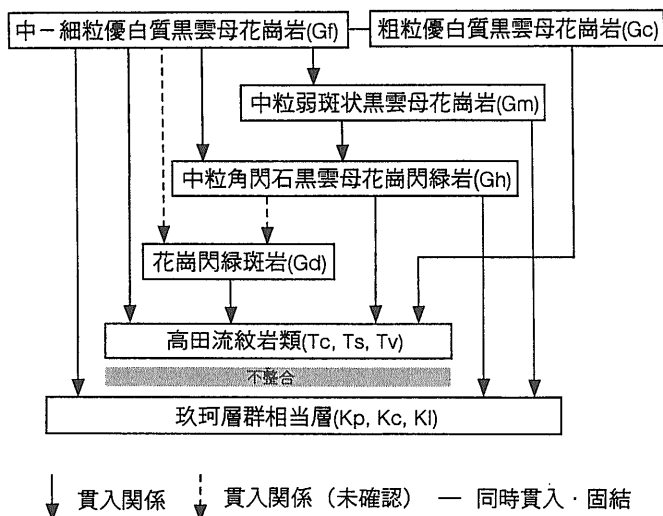
本図幅地域を構成する地質は、古い順に、玢珣層



第1図 海田市地域の地質概略図(地域地質研究報告(高木・水野, 1999)第3図を一部改変)。

1) 地質調査所 資源エネルギー地質部  
 2) 地質調査所 大阪地域地質センター

キーワード：地質図幅、海田市、広島、広島花崗岩類、高田流紋岩類、西条層



第2図

海田市地域に分布する火成岩類  
(岩脈類を除く)の相互関係(地域  
地質研究報告より転載)。

群相当層、高田流紋岩類、広島花崗岩類、第四紀堆積物からなります。本図幅地域の地質概略図を第1図に示しました。

玖珂層群相当層は、中生代三疊紀-ジュラ紀にかけて海底に堆積した礫質泥岩、シルト質泥岩、珪質砂岩、チャートからなります。本層は、全て花崗岩類のルーフペンダントとして地形の高所に局所的に分布し、花崗岩類の貫入により全体に強くホルンフェルス化しています。一般に北西-南東方向の走向を持ち、北に傾斜しています。図幅地域北西部の広島市安佐北区深川町付近に分布する本層中の銅・砒鉍鉱床は、金明(高陽)鉍山として、戦中から昭和38年頃まで盛んに採掘されました。

高田流紋岩類は、中国地方の代表的中生代白亜紀後期火山岩類の一つです。主に堅硬・緻密な流紋岩ガラス結晶質凝灰岩(一部溶結)、流紋岩ガラス質凝灰岩、流紋岩細粒凝灰岩と薄い凝灰質砂岩頁岩層から構成されます。本岩類も、花崗岩類のルーフペンダントとして、あるいは玖珂層群相当層を不整合に覆って、地形の高所に分布します。本図幅地域で最も標高の高い小田山のほか、鉾取山、原山、鬼ヶ城山などの峰々がその例です。本岩類は一般に塊状・無層理ですが、稀に観察される葉理面、凝灰質泥岩は30°以下の緩い傾斜を示します。花崗岩類の直上の本岩類は、しばしば熱水変質による絹雲母化、ろう石化を被り、その変質帯の一部は千石熊野鉍山(熊野ろう石鉍山)として、昭和34-39年の間、耐火物の原

料用に採掘されました。

広島花崗岩類は、中国地方の代表的な中生代白亜紀後期花崗岩類で、本図幅面積の約55%を占めます。本図幅地域の広島花崗岩類は、組織・モード組成・構成鉱物から、花崗閃緑斑岩、中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩、中粒弱斑状黒雲母花崗岩、中-細粒優白質黒雲母花崗岩、粗粒優白質黒雲母花崗岩、岩脈類の6種類に区分されます。これらの岩相のうち、中粒弱斑状黒雲母花崗岩と中-細粒優白質黒雲母花崗岩は、中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩の上位に層状に分布する特徴があります。第2図に本図幅地域内に分布する火成岩類の相互関係を示し、以下に各岩相の特徴を説明します。

**花崗閃緑斑岩：**高田流紋岩類を貫く独立した岩体で、図幅地域南東部に分布します。他の花崗岩類との関係は不明ですが、流紋岩類分布域にのみ産することから、本地域の花崗岩類中で最早期の岩体と考えられます。

**中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩：**図幅地域全域に広く分布します。等粒状で、しばしばマッチ箱大のカリ長石粗粒結晶、暗色包有物を多く含みます。

**中粒弱斑状黒雲母花崗岩：**図幅地域西北部及び東北部に分布します。径1cm前後の斜長石、石英の斑晶を含みます。

中-細粒優白質黒雲母花崗岩：尾根部やルーフペンダント直下に特徴的に分布します。広島市東区の呉娑々宇山，高尾山はその例です。有色鉱物が1-4容量%と少ないのが特徴です。

粗粒優白質黒雲母花崗岩：中-細粒優白質黒雲母花崗岩のペグマタイト質な部分で，JR海田市駅北方の日浦山や洞所山南方の新峠付近に小規模に分布します。

岩脈類：珪長岩（石英斑岩），花崗斑岩からなります。第四系を除く全ての岩体・地層に貫入し，特に金明鉦山周辺や向洋地域に多数分布します。

第四系は，図幅地域東部の西条盆地，黒瀬盆地に広く分布するほか，河川域，広島湾周辺にも小規模に分布します。これらは，西条層，段丘堆積物・崖錐堆積物，沖積層に区分されます。西条層は，かつて湖成堆積物とされていましたが，その堆積構造の特徴から，河川堆積物と判断されます。本層は，砂層優勢な砂礫層，シルト層を主体とし，花崗岩類を不整合に覆い，中期更新世に堆積しました。段丘堆積物・崖

錐堆積物は，共に後期更新世-完新世の堆積物で，花崗岩類，西条層を不整合に覆います。段丘堆積物は，上位段丘堆積物と下位段丘堆積物に細分され，共に砂礫層を主体とし，シルト層を挟みます。崖錐堆積物は，古期崖錐堆積物と新期崖錐堆積物に細分され，それぞれ上位段丘堆積物と下位段丘堆積物に対比されます。主に山麓部や谷口に分布します。両者とも淘汰不良な角・亜角礫層からなります。沖積層は現河川に沿った谷底平野に小規模に分布するほか，広島湾沿岸の河口部及び埋立地地下に厚い海成層として存在します。埋立地は，広島湾周辺の海岸沿いに大規模に造成されています。

尚，本図幅の凡例及び説明書に誤りがありましたので，第3図にその訂正箇所を示しました。

文 献

高木哲一・水野清秀 (1999)：海田市地域の地質。地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅)，地質調査所，p.49.

TAKAGI Tetsuichi and MIZUNO Kiyohide (2000)：Outline of the Geological Map of Japan 1:50,000 Kaitaichi.

< 受付：1999年10月1日 >

